



インフロニア・ホールディングス
22年3月期 第3四半期アナリスト向け決算説明会

February 14, 2022

今回の決算発表について

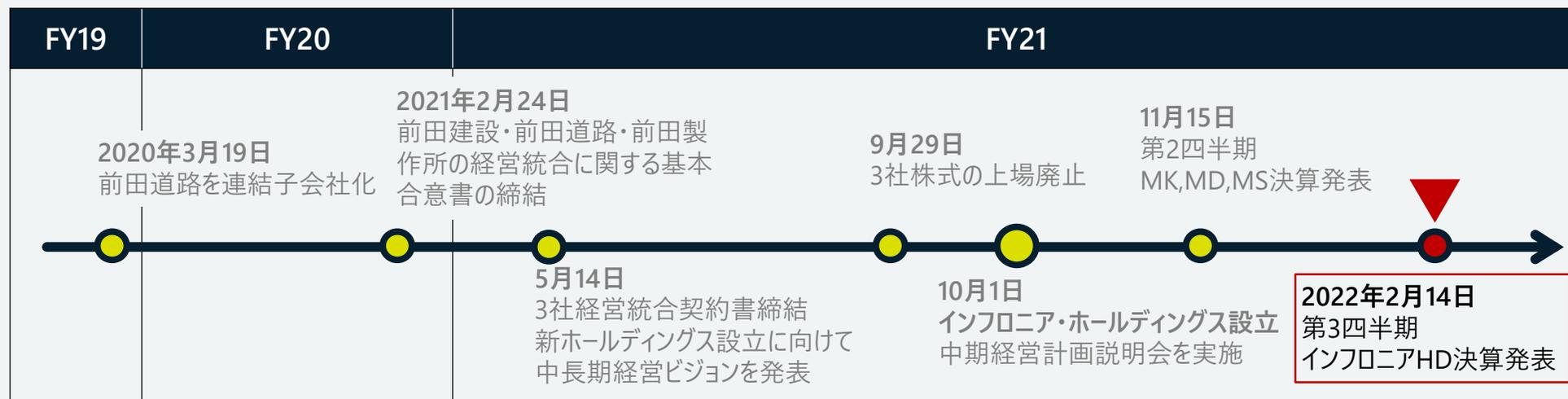
1. 決算短信

- **本第3四半期から、インフロニアHDの決算短信の開示を行います。**

※ 第2四半期は、上場会社であった前田建設工業（MK）、前田道路（MD）、前田製作所（MS）の3社分の決算短信を開示

※ 前田建設の単体の業績については、参考として第2四半期までと同様の記載をいたします。（決算短信P.16参照）

2. インフロニア・ホールディングス設立から現在までの経緯



22年3月期第3四半期 決算説明会 目次

本編

1. 決算のポイント
2. 決算の概要
3. 手持工事高・受注高・受注時利益率の推移（建築・土木セグメント）
4. 資本戦略・還元方針と今期の実績と見通し
5. セグメント別 売上高・利益の内訳
6. 建築セグメント 完工高と完工利益の推移（前田建設 個別数値）
7. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別数値）
8. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移（前田建設 個別数値）
9. 土木セグメント 完工高と完工利益の推移（前田建設 個別数値）
10. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別数値）
11. インフラ運営セグメント 連結利益への貢献
12. インフラ運営セグメント 利益貢献額について
13. インフラ運営セグメント 再生可能エネルギープロジェクト
14. 舗装セグメント 建設事業 受注高及び完工高と完工利益の推移
15. 舗装セグメント 製造販売 売上高と売上総利益の推移
16. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移
17. 主なグループ会社の業績推移と予想 22年3月期（FY21）損益計算書

Appendix

1. 22年3月期（FY21）事業会社3社 損益計算書
2. 【個別】前田建設 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳
3. 【連結】前田道路 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳
4. 【連結】前田製作所 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳
5. 持分法適用会社の業績推移と予想 22年3月期（FY21）損益計算書
6. トピックス「多様な用途における大型工事の受注に向けた取り組み」
7. トピックス「多様な用途における大型工事の受注に向けた取り組み」
8. トピックス「高速道路を始めとする道路大型更新・リニューアル工事の受注に向けて」
9. トピックス「国土交通省 E C I 業務 初の受注」
10. トピックス「運営中のインフラ運営事業」
11. トピックス「大阪市工業用水道特定運営事業等のご紹介」
12. トピックス「建設工事实績」
13. トピックス「包括管理実績」
14. トピックス「魅力ある製品の市場投入」
15. 地球への配当について
16. セグメント分けの変更
17. ホールディングス化に伴う連結決算の変化
18. インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル
19. インフロニア・ホールディングスの戦略のポイント
20. インフロニア・ホールディングスが目指す姿
21. 経営目標数値

1. 決算のポイント

① 今回の決算について (P.4)

- 第3四半期時点で、計画は未達であるが、**営業利益と当期純利益の通期予想は達成**できる見込み
- 特に、**通期の当期純利益については過去最高**となる見込み (対 旧前田建設連結)

② 来期以降の見通しについて (P.5, P.37)

- 建築・土木セグメントの**手持工事高は過去最高** (P.5)
- 更に、**各セグメントとも高い受注時利益率**であることから、来期以降も堅調に推移する見込み (P.5)
- 舗装セグメントは、原油価格の変動が利益率に影響するため、来期以降は影響低減のための取り組み (単価の早期調整、代替燃料への転換等) を強化
- インフラ運営セグメントは、不可抗力等の要因を契約で回避できており、**来期以降も安定的に推移**
- 更に、4月より**大阪工水コンセッションが運営開始**となり、今後の水道コンセッション拡大に向けた大きな足がかりとなる (P.37)

③ 株主還元について (P.6)

- 1株当たりの配当額 **40円 (配当性向44.4%)**
- 自己株式の取得は2022年1月31日時点で約93億円を取得済み、期末の取得総額は**約120億円**の見込みであり、総還元性向は**93.7% (配当性向44.4% + 自己株式取得47.3% + 地球への配当2.0%*)**となる見込み

④ 政策保有株について (P.6)

- 期末までに60億円以上の売却を予定 (3Qまでに23億円の売却を実行済)
- これにより、政策保有株の連結純資産に対する保有比率は2Q時点で30.3% → 期末時点25.5%となる見込み
- 来期以降も積極的に売却を推進し、中期経営計画目標20%の来期中達成を目指す

※ 前田建設では、地球資源の恩恵を受けながら事業活動を行っていることから、連結純利益の2%を株主配当と同様に投資者「地球」に還元する地球への配当を実施していました。インフロニアHDの設立に伴い、この地球への配当をインフロニアHDに引き継ぎ、今後も継続して実施してまいります。また、総還元性向にはこれを独自に算入しております。(P.41)

2. 決算の概要

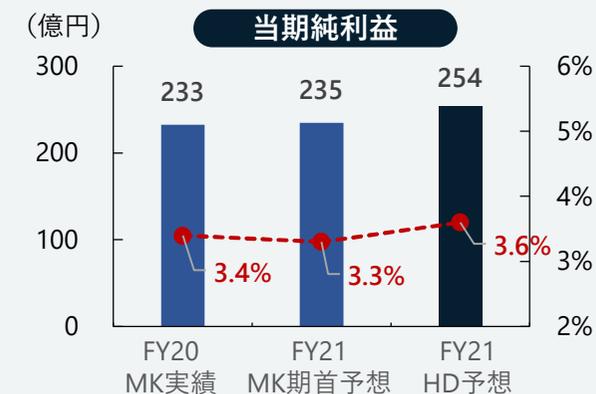
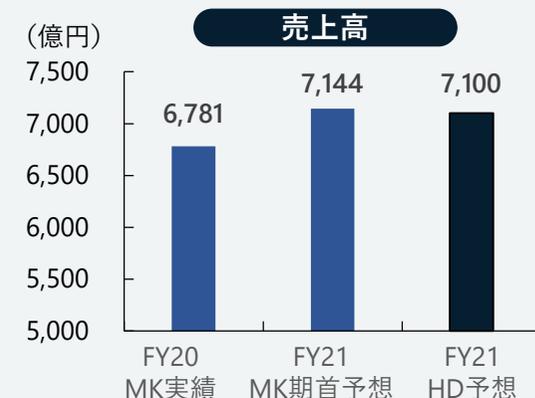
- 第3四半期時点で、計画は未達であるが、**営業利益と当期純利益の通期予想は達成**できる見込み
- 特に、**通期の当期純利益については過去最高**となる見込み（対 旧前田建設連結）

(億円)

	前田建設（連結）	インフロンニアHD		
	FY20 通期実績	①FY21 通期予想	②FY21 3Q実績	進捗率 ②/①
売上高	6,781	7,100	4,823	67.9%
売上総利益	968 (13.2%)	956 (13.5%)	584 (12.1%)	61.0%
一般管理費	504	556	408	73.4%
営業利益	463 (6.8%)	400 (5.6%)	176 (3.6%)	43.9%
営業外収益	39	—	30	—
営業外費用	46	—	26	—
経常利益	457 (6.7%)	397 (5.6%)	180 (3.7%)	45.3%
特別利益	46	—	38	—
特別損失	17	—	4	—
当期純利益	233 (3.4%)	254 (3.6%)	107 (2.2%)	42.1%
自己資本	2,700	3,589※1	3,483	—
ROE	9.3%	8.1%※2	—	—
EPS	126.5円	87.5円	—	—

※1 11/15に開示した自己株取得200億円のうち、22年3月末までに約120億円の取得を見込んで算出

※2 自己資本期中平均値を用いて算出



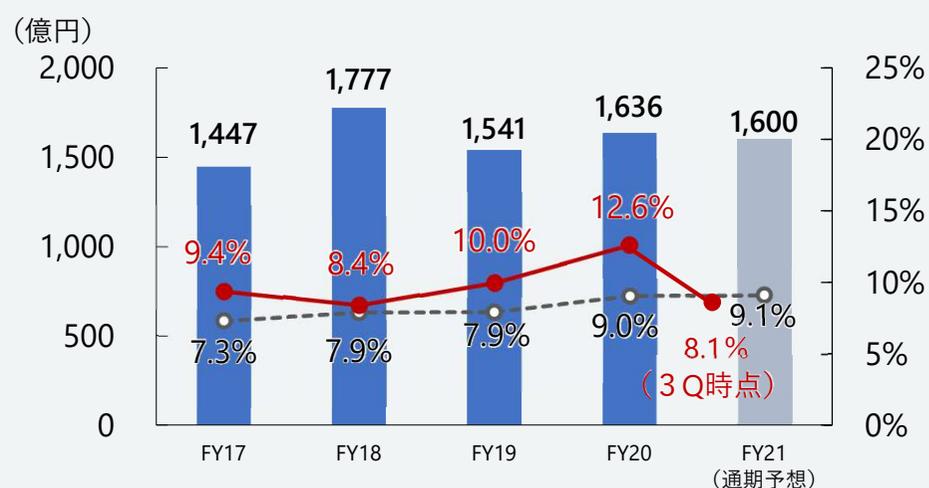
3. 手持工事高・受注高・受注時利益率の推移（建築・土木セグメント）

- 手持工事高は、期末時点では**過去最高水準**に達する見込
- 受注時利益率は、従前より取り組んでいる**受注時利益率管理の徹底**により、**順調に上昇**
- 建築の受注時利益率は、3Q時点で**8.4%**であり、**通期目標の7%**を大幅に上回る見込
- 土木の受注時利益率は、3Q時点で**8.1%**であるが、期末にかけて出件される大型官庁案件と設計変更の獲得により**目標の9.1%**を達成する見込

建築



土木



※前田建設（個別）の業績数値

4. 資本戦略・還元方針と今期の実績と見通し

Medium-term Vision 2024 (中期経営計画)			実績/見通し	備考
資本効率	ROE	9.5%	8.1%	期末見込
最適 資本構成	自己資本比率	30%以上	37.7%	3Q時点
	D/Eレシオ	0.6倍以下	0.6倍	3Q時点
株主還元	配当性向	30%以上	44.4%	1株当たり配当額 40円
	自己株式の 取得	FY24までに 400億円以上	約120億円	期末見込
	総還元性向	—	93.7%	配当性向44.4% + 自己株式取得 47.3% + 地球への配当2.0%
資産 効率化	政策保有株/ 純資産割合	20%以下	2Q時点30.3% ↓ 3Q時点27.7%	期末までに60億円以上を売却し、 25.5%となる見通し 来期以降さらに売却を加速
	保有資産の 売却	グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を検討		

5. セグメント別 売上高・利益の内訳

(億円)

	①FY21 通期予想	②FY21 3Q実績	進捗率 ②/①
売上高	7,100	4,823	67.9%
建築	2,272	1,526	67.2%
土木	1,503	992	66.0%
舗装	2,380	1,672	70.3%
機械	337	249	73.9%
インフラ運営	230	119	51.6%
その他	378	265	70.0%
売上総利益	956 (13.5%)	584 (12.1%)	61.0%
建築	249 (11.0%)	143 (9.4%)	57.5%
土木	235 (15.6%)	168 (16.9%)	71.6%
舗装	249 (10.5%)	157 (9.4%)	62.9%
機械	74 (22.0%)	53 (21.3%)	71.8%
インフラ運営	103 (44.8%)	30 (25.0%)	28.8%
その他	46 (12.2%)	33 (12.4%)	71.4%
営業利益	400 (5.6%)	176 (3.6%)	43.9%
建築	97 (4.3%)	28 (1.9%)	29.3%
土木	135 (9.0%)	90 (9.0%)	66.5%
舗装	50 (2.1%)	16 (0.9%)	31.2%
機械	17 (5.0%)	12 (5.0%)	73.4%
インフラ運営	85 (37.0%)	17 (14.4%)	20.2%
その他	16 (4.2%)	12 (4.6%)	76.0%

各セグメント区分

建築事業	前田建設 建築事業 (不動産含む)
土木事業	前田建設 土木事業 (不動産含む)
舗装事業	前田道路 (連結)
機械事業	前田製作所 (連結)
インフラ 運営事業	前田建設 インフラ運営関連子会社
その他	前田建設 建築・土木関連子会社等

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

その他

6. 建築セグメント 完工高と完工利益の推移（前田建設 個別数値）

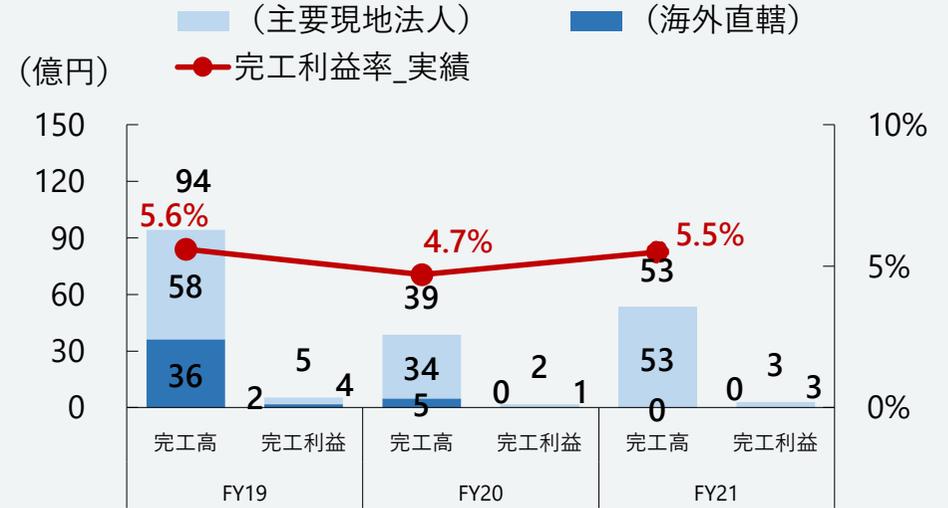
- FY21 3Q 完工高、完工利益額ともに、前期と同水準で堅調に進捗
- FY21通期 完工高、完工利益額・率ともに前期を上回り、増収・増益の見込
- 来期以降 資材・労務費上昇による利益への影響は現状ないが、今後高騰すると影響を及ぼす可能性あり

第3四半期

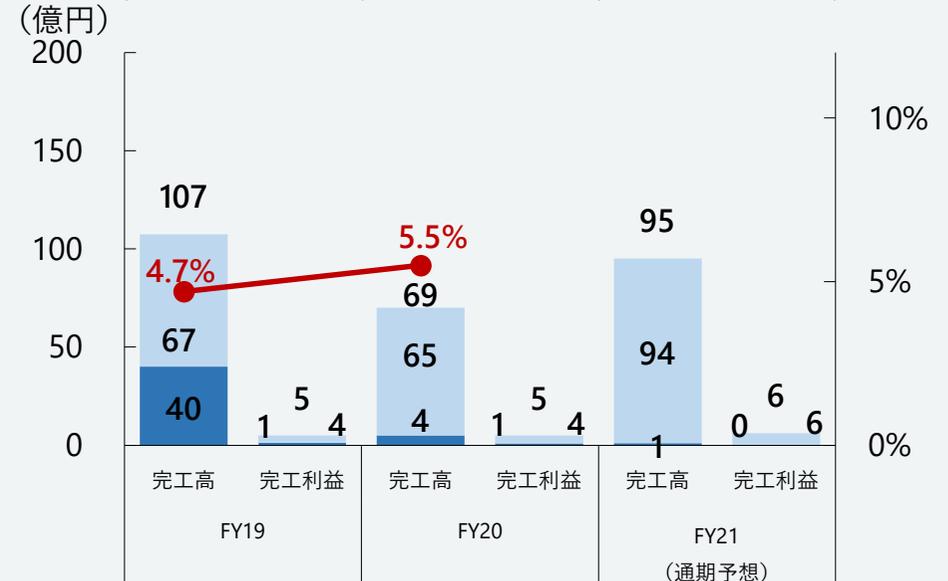
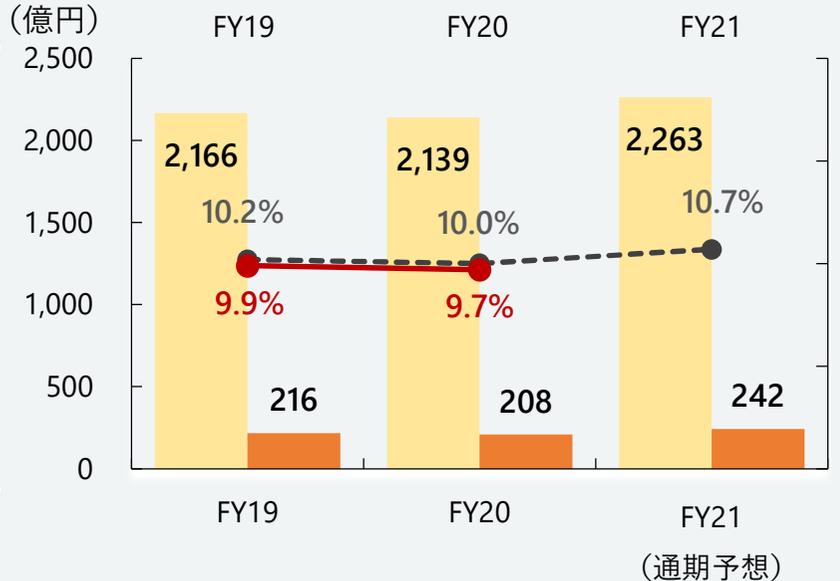
国内※



海外※



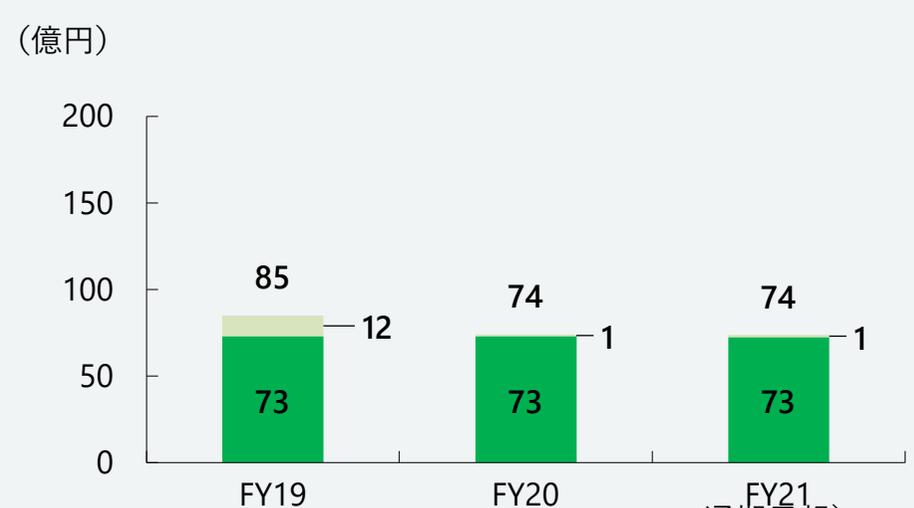
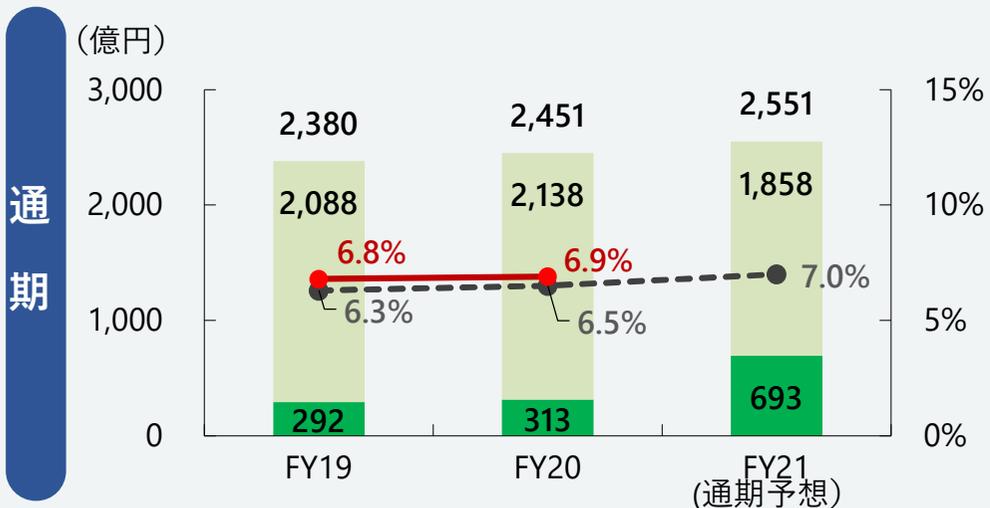
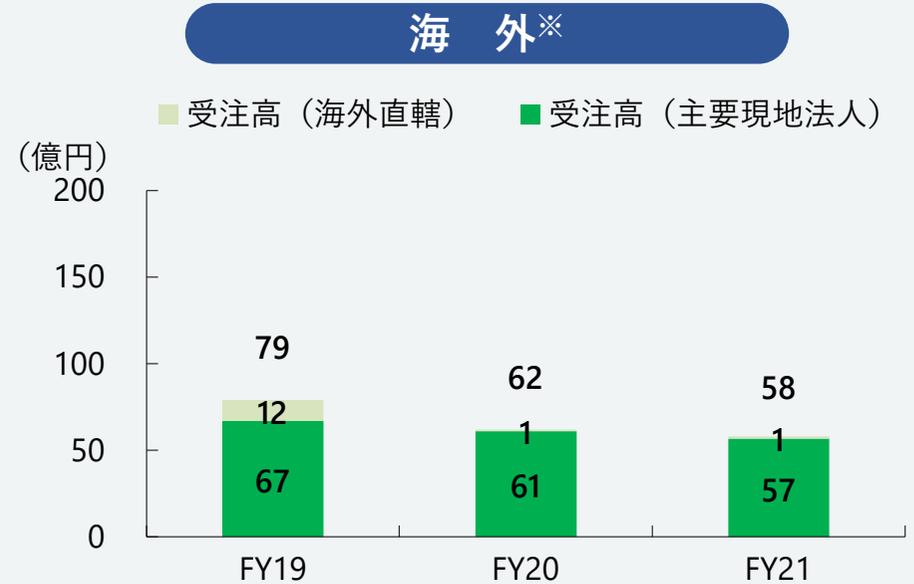
通期



※不動産事業除く。海外の主要現地法人の完工高・完工利益はその他セグメントに含まれる。

7. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別数値）

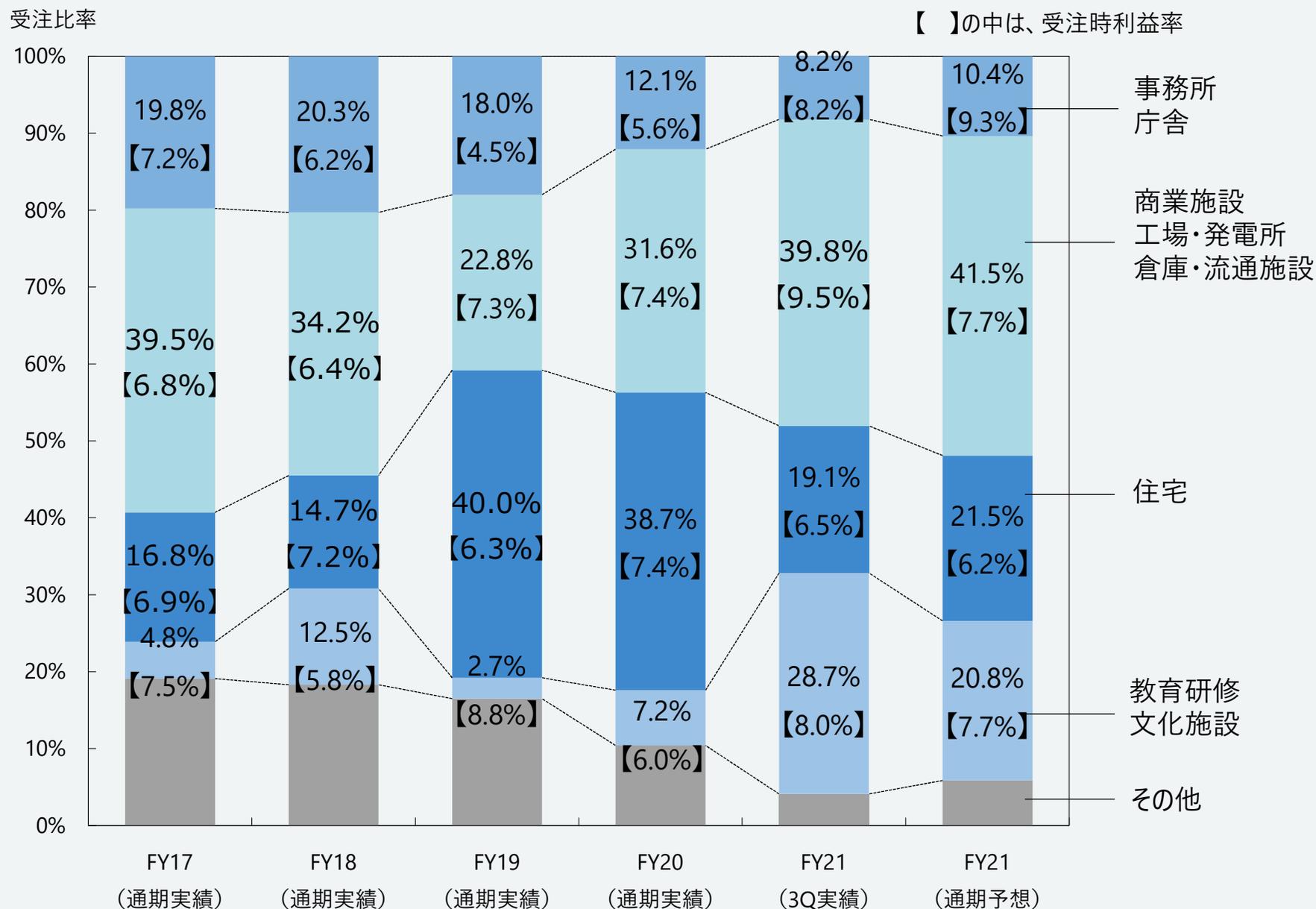
- FY21 3Q コンセッション関連案件の受注により、官庁工事の受注比率が増
- FY21通期 受注高は期首公表値を若干下回るが、受注時利益率の3Q実績は8.4%であり、通期では期首目標値7.0%を大幅に上回る見込



※不動産事業除く。海外の主要現地法人の受注高はその他セグメントに含まれる。

8. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移（前田建設 個別数値）

- FY21 3Q・通期 バイオマス発電所や物流施設の受注により『工場・発電所、倉庫・流通施設』の比率が高まる

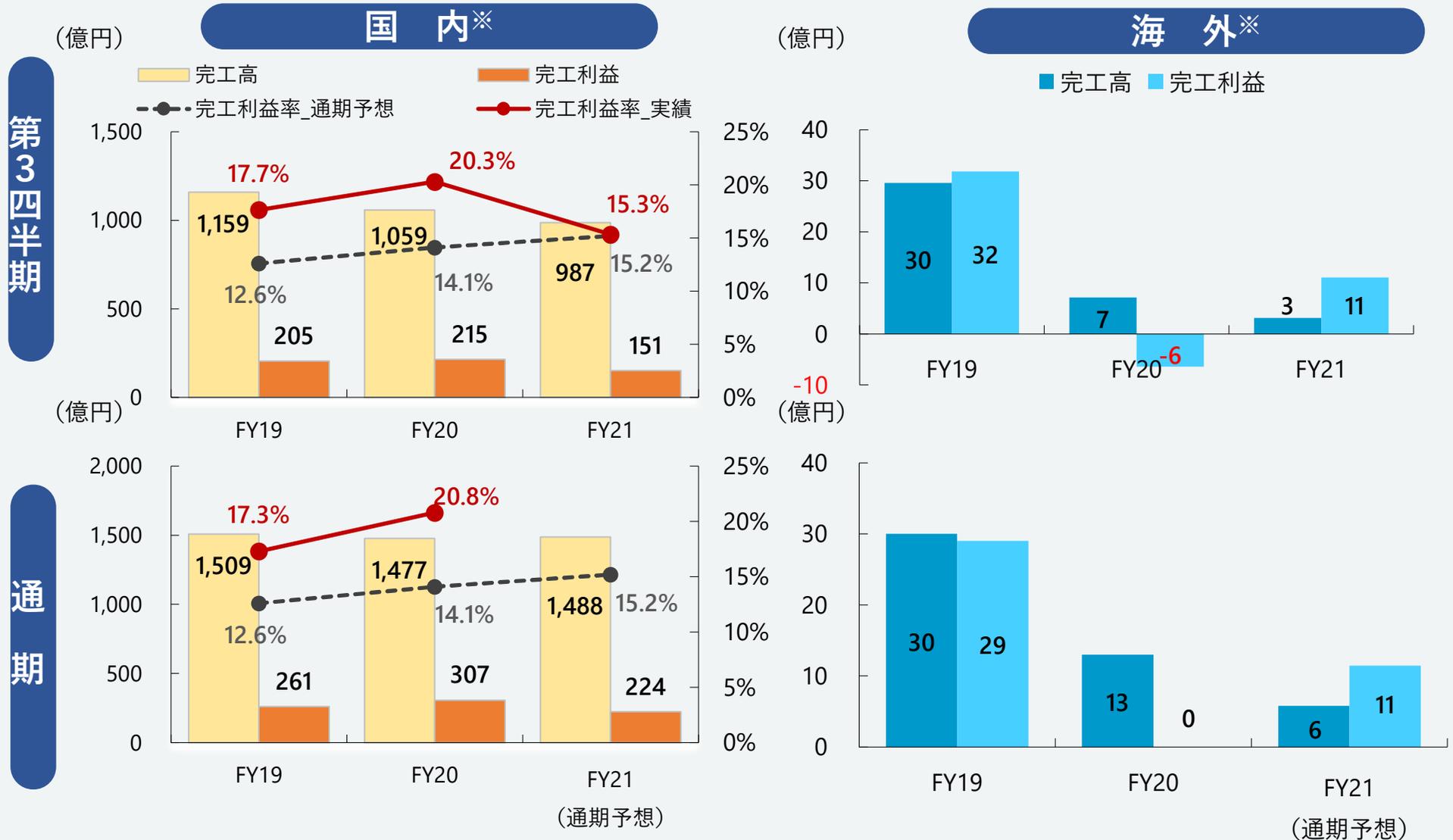


セグメント別ハイライト

建築	土木	インフラ運営
舗装	機械	その他

9. 土木セグメント 完工高と完工利益の推移（前田建設 個別数値）

- FY21 3Q・通期 完工高・完工利益は過年度の特殊要因（FY19：海外の係争案件の引当金の戻り、FY20：大型設計変更の獲得）を除くと例年並みで進捗
- 来期以降 リニア等の大型案件の本格稼働により、堅調に推移する見込み



※不動産事業除く。

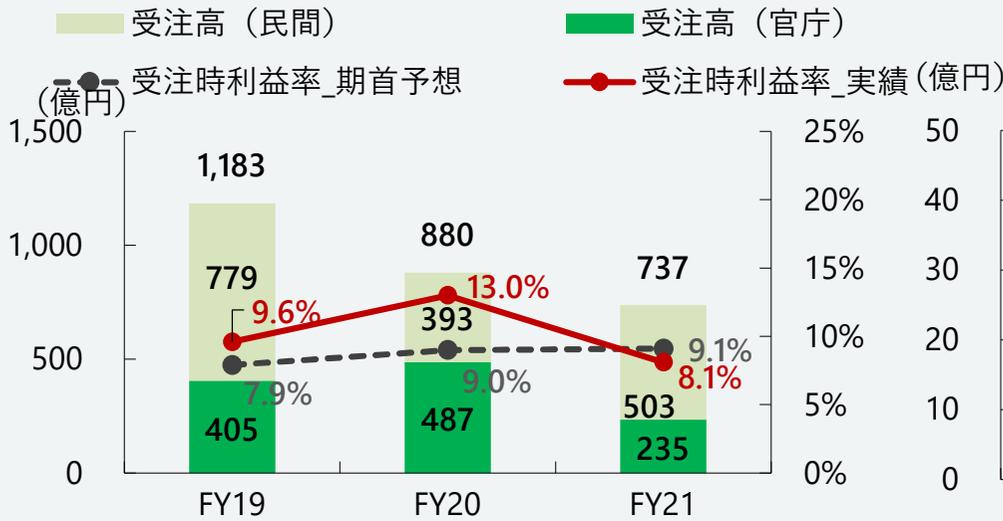
10. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別数値）

- FY21 3Q 国内官庁工事は競争激化により減少するも、好調な民間工事が全体の受注高を牽引
受注高、受注時利益率はやや減少
- FY21通期 通期目標1,600億に対し、3Q時点で進捗率46%（740億）であるが、4Qに予定されている大型案件
の受注、設計変更の更なる獲得により通期目標達成の見込み

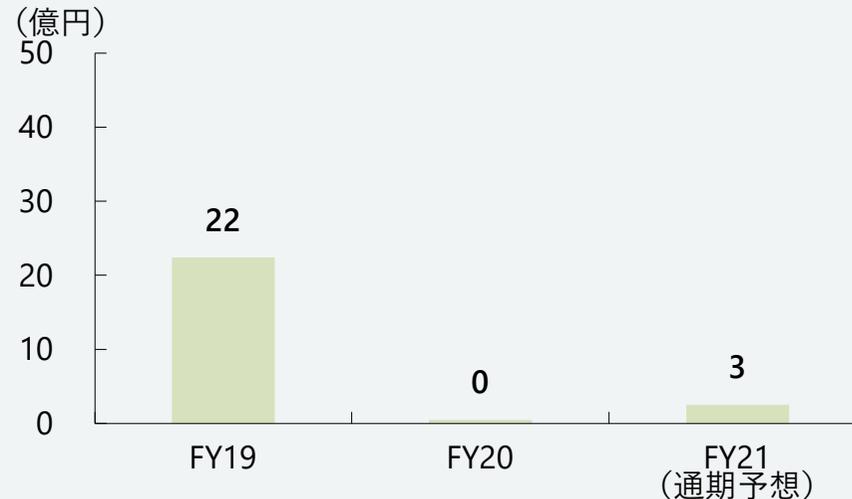
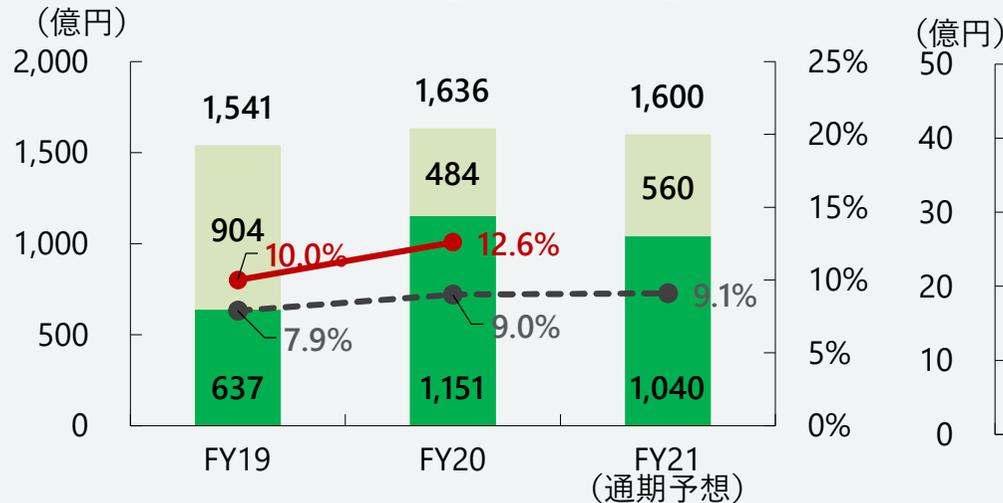
国内※

海外※

第3
四半期



通期



※不動産事業除く。

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

その他

11. インフラ運営セグメント 連結利益への貢献

- FY21 3Q 再エネ事業、コンセッション事業の連結子会社は概ね堅調に推移
- FY21通期 コンセッション事業は安定的に推移 再エネ事業は売却益を計上予定

		FY16 (実績)	FY17 (実績)	FY18 (実績)	FY19 (実績)	FY20 (実績)	FY21 (予想)	FY27 NEXT10
連結利益への貢献（合計）		22億円	46億円	62億円	53億円	52億円	100億円	300億円
内 訳	連結子会社の営業利益 (愛知道路C、五葉山太陽光等)	19億円	39億円	38億円	48億円	43億円	33億円	-
	個別業績貢献 (O&M,EPC,開発等業務委託利益等)	2億円	7億円	13億円	5億円	12億円	4億円	-
	その他収益 ※	1億円	0億円	11億円	0億円	-3億円	63億円	-

※ その他収益には売却益、非連結SPC株式配当等を含む

愛知道路コンセッション

第3四半期

通期

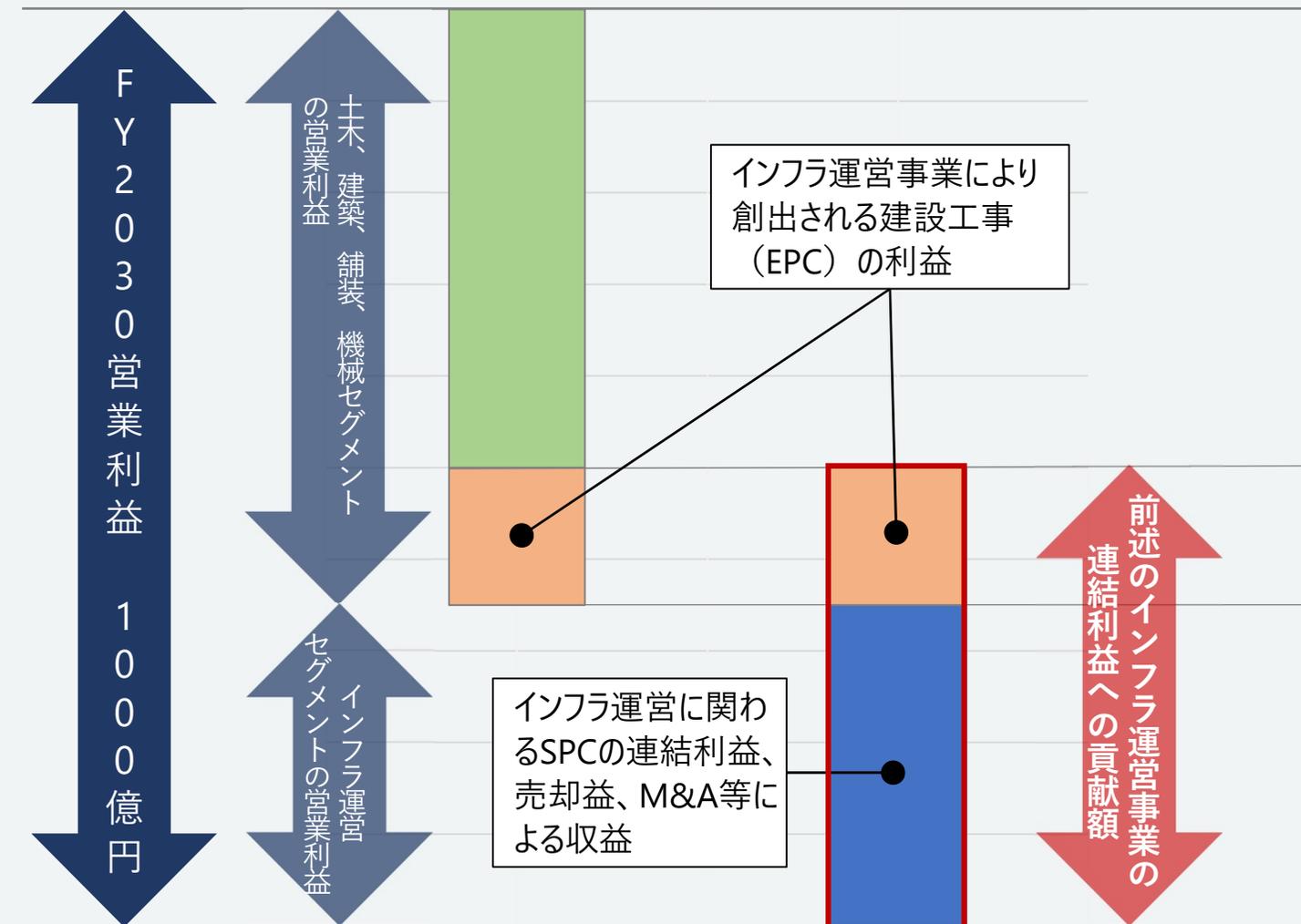
(百万円)

	FY20 実績	FY21 実績	前年比較
売上高	9,667	10,185	+518
営業利益	2,285	2,060	-225
経常利益	300	506	+206
当期純利益	201	951	+750

	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
売上高	12,836	14,083	+1,247
営業利益	3,147	2,404	-743
経常利益	1,692	1,075	-617
当期純利益	1,555	980	-575

12. インフラ運営セグメント 利益貢献額について

- ・「前述のインフラ運営事業の連結利益への貢献額」は、「インフラ運営事業により創出される建設工事（EPC）の利益」と「インフラ運営に関わるSPCの連結利益、売却益、M&A等による収益」を合わせた数値



13. インフラ運営セグメント 再生可能エネルギープロジェクト

事業区分	場所	規模(AC)	FIT 価格	総事業費	内容
太陽光	茨城県 つくば	2 MW	40円	約6億円	2013/3 完成
	岩手県 大船渡	18 MW	40円	約64億円	2015/8 完成
	茨城県 北茨城	6.5 MW	36円	約21億円	2016/3 売却
	山口県 美祢	7 MW	40円	約28億円	2017/8 完成
	山梨県 甲斐	18 MW	36円	約70億円	2020/5 完成・売却
陸上風力	青森県 六ヶ所	20 MW	22円	約113億円	2016/6 売却
	秋田県 八峰	20 MW	22円	約72億円	2019/1 完成
バイオマス	愛媛県 大洲	50 MW	24円	約380億円	2024/7 完成予定
計		141.5MW		約750億円	
洋上風力	山口県 下関安岡	60 MW	—	約350億円	事業開発中
陸上風力	関西地方	(検討中)	—	(検討中)	事業開発中
計		201.5MW		約1,100億円	

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

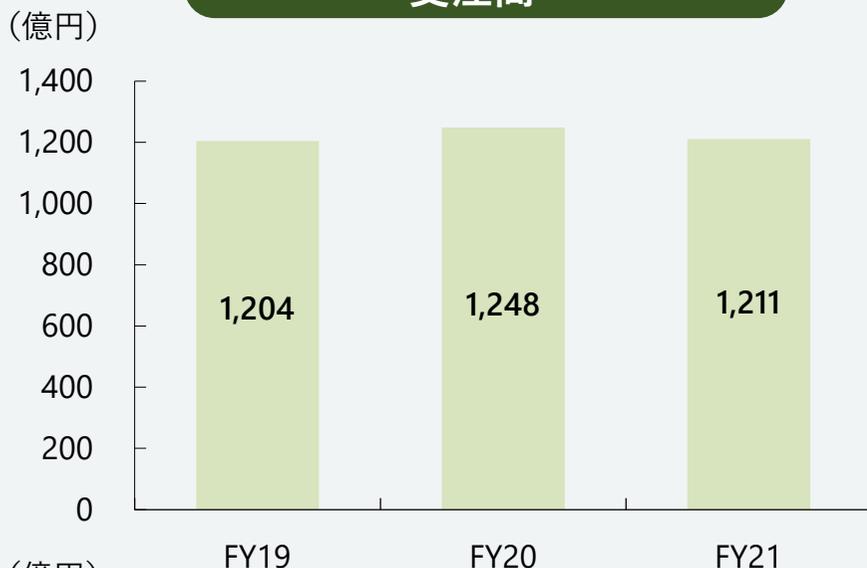
その他

14. 舗装セグメント 建設事業 受注高及び完工高と完工利益の推移

- FY21 3Q 上期は大型案件の完工高が少なく利益率が上がらなかったが（2Q迄実績：8.2%）、下期に入りこれらの案件が完成するとともに、利益率は改善（3Q迄実績：8.8%）
- FY21通期 手持工事の進捗により完工高増、経費を吸収し利益改善

第3
四半期

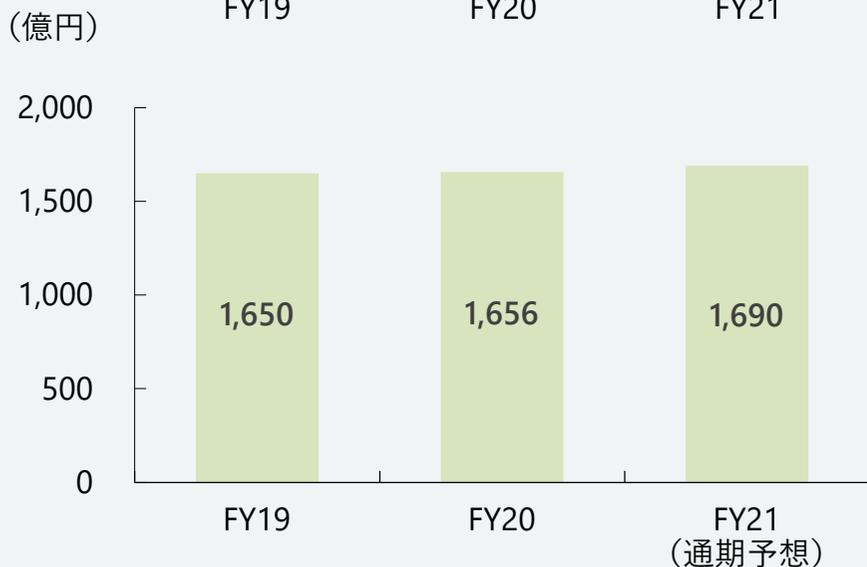
受注高※



完工高と完工利益※



通期

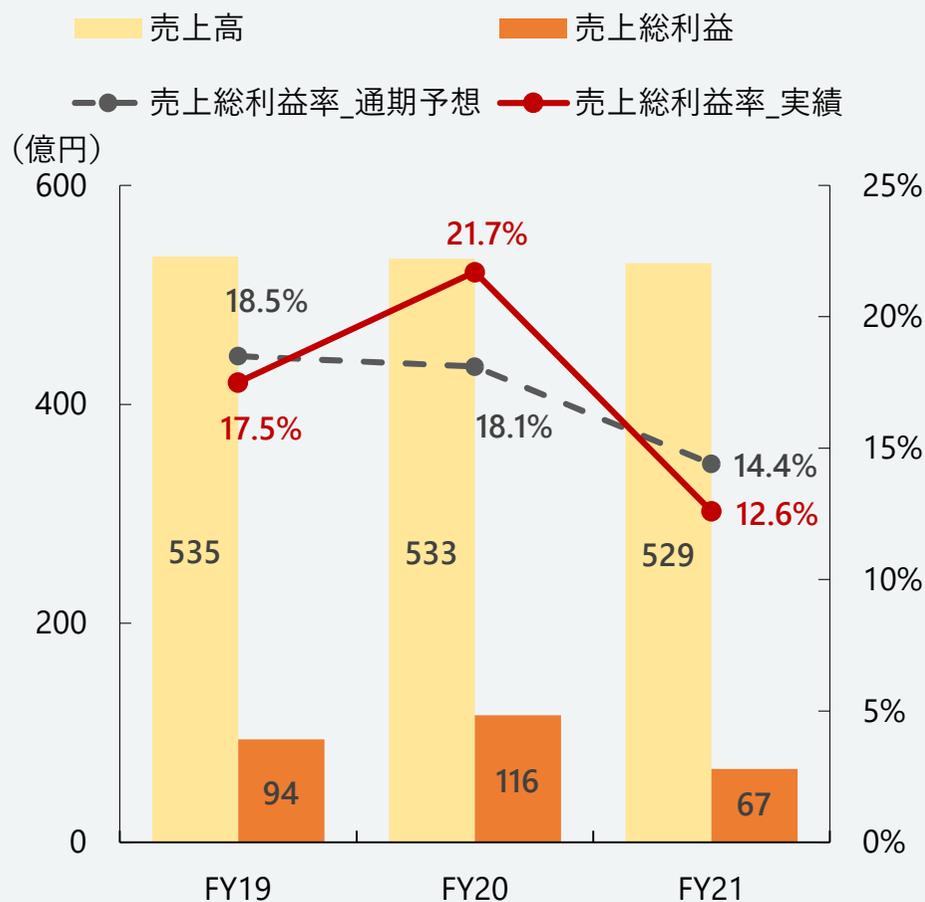


※従来の前田道路の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

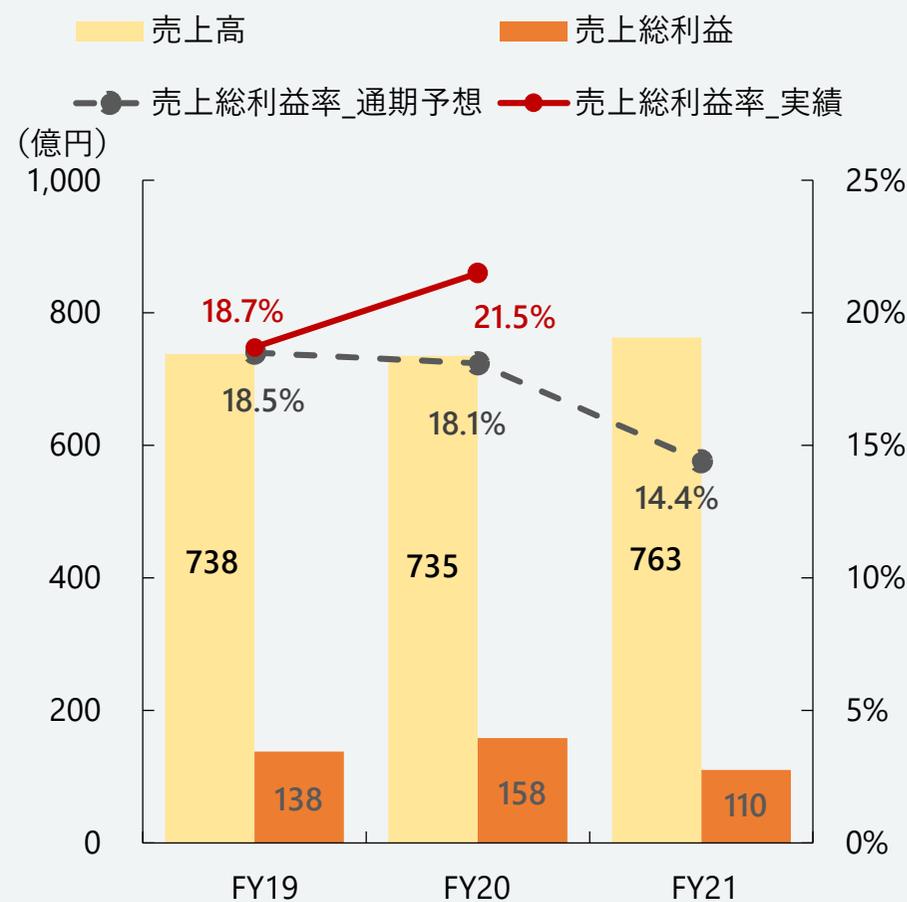
15. 舗装セグメント 製造販売 売上高と売上総利益の推移

- FY21 3Q 販売価格の値上げを行うものの、原油価格高騰が想定以上に進み、前期比大幅減益
- FY21通期 原油価格高騰分の販売価格への転嫁を行うものの、想定以上に原油価格高騰が進んでいるため、継続して値上げを推進し、収益性の改善を図る
- 来期以降 原油価格高騰が想定以上に進むものの、値上げの推進により収益性の改善を図る

第3四半期※



通期※



※上記数値は、前田道路の従来の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

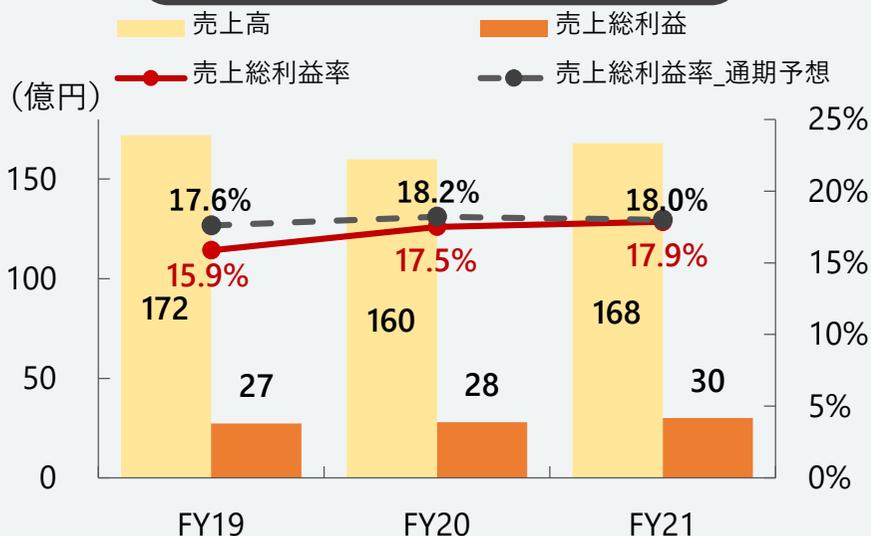
その他

16. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移

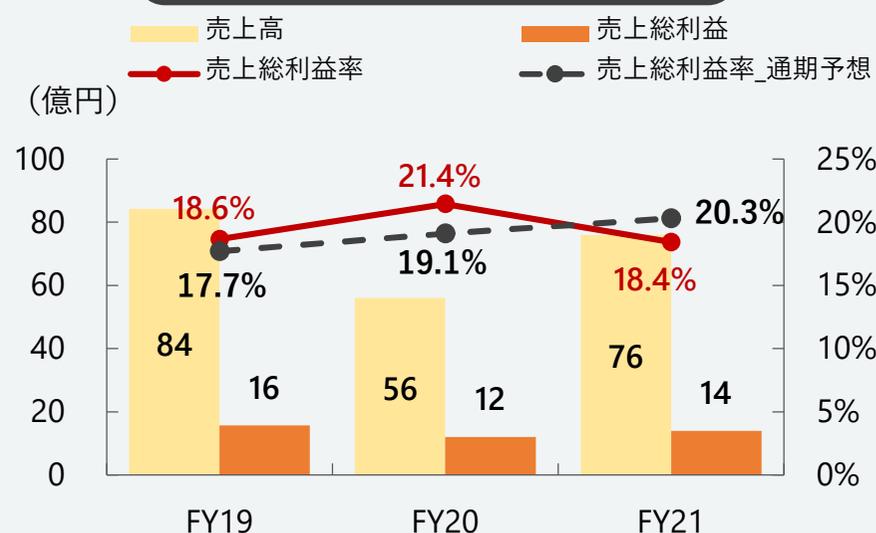
- FY21 3Q 建設機械の販売・整備受注、産業機械等製品（かにクレーン）の販売が堅調に推移
- FY21通期 部品供給の遅れによる影響が懸念されるが、売上高は通期予想達成の見込
- 来期以降 バッテリ仕様クレーンのラインナップ拡充を急ぎ、ヨーロッパを中心とした需要の取り込みを狙う

第3四半期

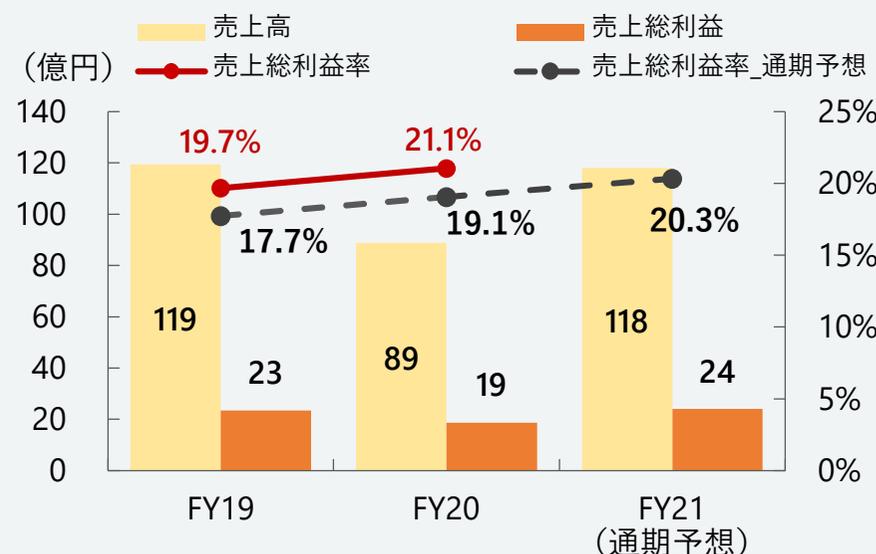
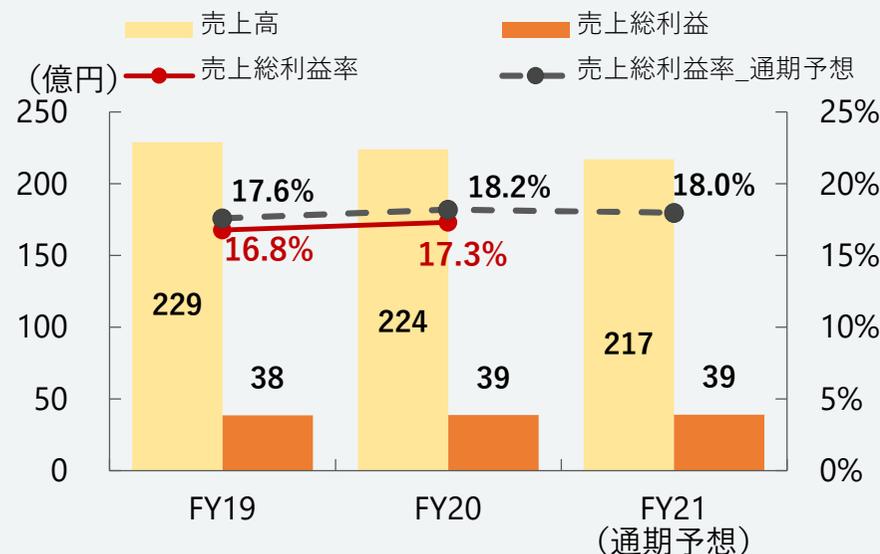
建設機械※



産業・鉄構機械等※



通期



※機械セグメントの内、主要事業である建設機械、産業・鉄構機械等の数値

セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

機械

その他

17. 主なグループ会社の業績推移と予想 22年3月期（FY21）損益計算書

	第3四半期			通 期		
	FY20 実績	FY21 実績	前年比較	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
エフビーエス						
売上高	16,268	15,509	-759	23,014	21,000	-2,014
営業利益	625	712	+87	995	940	-55
経常利益	651	738	+87	1,027	961	-66
当期純利益	403	0	-403	637	620	-17
フジミエ研						
売上高	4,941	5,163	+222	7,317	7,315	-2
営業利益	207	167	-40	310	235	-75
経常利益	233	1,709	+1,476	350	1,773	+1,423
当期純利益	177	1,324	+1,147	251	1,346	+1,095
JM						
売上高	13,923	15,053	+1,130	19,794	23,000	+3,206
営業利益	-231	294	+525	△92	460	+552
経常利益	-185	313	+498	△48	476	+524
当期純利益	-218	229	+447	△62	167	+229

(百万円)

Appendix

1. 22年3月期（FY21）事業会社3社 損益計算書

(億円)

第3
四半期

	前田建設（個別）				前田道路（連結）				前田製作所（連結）									
	FY20		FY21		前年比較		FY20		FY21		前年比較		FY20		FY21		前年比較	
	実績		実績		増減	増減率	実績		実績		増減	増減率	実績		実績		増減	増減率
売上高	2,627		2,548		-79	-3.0%	1,668		1,691		+23	+1.4%	233		260		+27	+11.3%
売上総利益	371	14.1%	324	12.7%	-47	-12.6%	242	14.5%	170	10.1%	-71	-29.5%	48	20.6%	53	20.5%	+5	+10.6%
一般管理費	179	6.8%	207	8.1%	+28	+15.8%	84	5.0%	92	5.4%	+8	+9.2%	39	16.6%	41	15.9%	+2	+6.5%
営業利益	191	7.3%	117	4.6%	-75	-39.1%	158	9.5%	79	4.6%	-79	-50.2%	9	4.0%	12	4.6%	+3	+27.3%
経常利益	349	13.3%	193	7.6%	-155	-44.5%	162	9.7%	82	4.8%	-80	-49.6%	10	4.4%	13	4.9%	+3	+23.8%
四半期純利益	296	11.3%	147	5.8%	-149	-50.3%	128	7.7%	70	4.1%	-58	-45.4%	7	2.8%	8	3.2%	+1	+25.7%

(億円)

通
期

	前田建設（個別）				前田道路（連結）				前田製作所（連結）									
	FY20		FY21		前年比較		FY20		FY21		前年比較		FY20		FY21		前年比較	
	実績		通期予想		増減	増減率	実績		通期予想		増減	増減率	実績		通期予想		増減	増減率
売上高	3,661		3,860		+199	+5.4%	2,346		2,400		+54	+2.3%	335		357		+22	+6.6%
売上総利益	537	14.7%	560	14.5%	+23	+4.3%	333	14.2%	270	11.3%	-63	-18.9%	68	20.4%	74	20.7%	+6	+8.3%
一般管理費	239	6.5%	265	6.9%	+26	+10.7%	126	5.4%	134	5.6%	+8	+6.4%	54	16.2%	57	16.0%	+3	+5.2%
営業利益	297	8.1%	295	7.6%	-2	-0.7%	207	8.8%	136	5.7%	-71	-34.2%	14	4.2%	17	4.7%	+3	+19.0%
経常利益	452	12.4%	366	9.5%	-86	-19.1%	211	9.0%	137	5.7%	-73	-34.9%	15	4.5%	18	4.9%	+3	+15.5%
当期純利益	362	9.9%	270	7.0%	-92	-25.5%	168	7.1%	110	4.6%	-58	-34.3%	10	3.0%	11	3.1%	+1	+10.2%

2. 【個別】前田建設 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳

第3四半期

		FY20 実績	FY21 実績	前年比較
売上高		2,627	2,548	-79
建築	計	1,539	1,525	-13
	国内	1,534	1,525	-9
	海外	5	0	-4
土木	計	1,067	990	-76
	国内	1,059	987	-72
	海外	7	3	-4
インフラ運営		10	8	-2
不動産		12	24	+12
売上総利益		371 (14.1%)	324 (12.7%)	-47
建築	計	141 (9.1%)	140 (9.2%)	-1
	国内	140 (9.1%)	140 (9.2%)	-0
	海外	0 (7.4%)	-0 (-11.5%)	-0
土木	計	215 (20.1%)	163 (16.4%)	-52
	国内	215 (20.3%)	151 (15.3%)	-63
	海外	-0 (-0.9%)	11 (353.1%)	+11
インフラ運営		10 (98.4%)	8 (99.3%)	-2
不動産		6 (46.1%)	14 (56.1%)	+8

通 期

(億円)

		FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
売上高		3,661	3,860	+199
建築	計	2,144	2,264	+120
	国内	2,139	2,263	+124
	海外	5	1	-4
土木	計	1,486	1,494	+8
	国内	1,477	1,488	+11
	海外	9	6	-3
インフラ運営		14	75	+61
不動産		16	28	+12
売上総利益		537 (14.7%)	560 (14.5%)	+23
建築	計	208 (9.7%)	243 (10.7%)	+35
	国内	208 (9.7%)	242 (10.7%)	+34
	海外	1 (11.8%)	0 (25.0%)	-1
土木	計	307 (20.6%)	228 (15.2%)	-79
	国内	307 (20.8%)	224 (15.1%)	-83
	海外	-0 (-2.8%)	4 (65.1%)	+4
インフラ運営		14 (99.0%)	75 (100.0%)	+61
不動産		7 (45.2%)	15 (53.8%)	+8

3. 【連結】前田道路 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳

第3四半期

	FY20 3Q実績	FY21 3Q実績	増減
売上高	1,668	1,691	+23
建設事業	1,131	1,158	+27
製造販売	533	529	-4
その他	4	4	-0
売上総利益	242	170	-71
建設事業	124	101	-23
製造販売	116	67	-49
その他	2	2	+0

通期

(億円)

	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
売上高	2,346	2,400	0
建設事業	1,605	1,637	-3
製造販売	735	763	+3
その他	6	-	-
売上総利益	333	270	-55
建設事業	173	160	-14
製造販売	158	110	-41
その他	2	-	-

4. 【連結】前田製作所 セグメント別 売上高・売上総利益の内訳

第3四半期

	FY20 3Q実績	FY21 3Q実績	増減
売上高	233	260	+27
建設機械	160	168	+8
産業・鉄構機械等	56	76	+20
介護用品・その他	17	16	-1
売上総利益	48	53	+5
建設機械	28	30	+2
産業・鉄構機械等	12	14	+2
介護用品・その他	8	9	+1

通期

(億円)

	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
売上高	335	357	+22
建設機械	224	217	-7
産業・鉄構機械等	89	118	+29
介護用品・その他	22	22	0
売上総利益	68	74	+6
建設機械	39	39	0
産業・鉄構機械等	19	24	+5
介護用品・その他	11	11	0

5. 持分法適用会社の業績推移と予想 22年3月期（FY21）損益計算書

第3四半期

通期

(百万円)

東洋建設

	FY20 実績	FY21 実績	前年比較
売上高	109,952	101,497	-8,456
営業利益	7,816	4,610	-3,206
経常利益	7,618	4,695	-2,923
当期純利益	5,180	3,135	-2,045

	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較
売上高	154,799	152,500	-2,299
営業利益	12,984	8,100	-4,884
経常利益	12,833	8,100	-4,733
当期純利益	8,488	5,600	-2,888

光が丘興産

	FY20 実績	FY21 実績	前年比較 ※
売上高	31,344	2,611	-28,733
営業利益	669	369	-300
経常利益	1182	2843	+1,661
当期純利益	725	2332	+1,607

	FY20 実績	FY21 通期予想	前年比較 ※
売上高	44,554	3,600	-28,733
営業利益	826	350	-300
経常利益	1,340	2,800	+1,661
当期純利益	802	2,100	+1,607

※ 光が丘興産のFY21の売上高の大幅な減少は、収益認識に関する会計基準の適用による

6. トピックス「多様な用途における大型工事の受注に向けた取組み」

(仮称) 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業 5-5街区タワー棟 新築工事



東京五輪競技大会後のレガシーとなるまちづくりに向け、都心から近く海に開かれた立地特性を生かして、子育てファミリー、高齢者、外国人等多様な人々が交流し、いきいきと生活できるまちづくりを目指す

発注者：三井不動産レジデンシャル株式会社、エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社、日鉄興和不動産株式会社、住友商事株式会社、住友不動産株式会社、大和ハウス工業株式会社、東急不動産株式会社、東京建物株式会社、野村不動産株式会社、三菱地所レジデンス株式会社

愛知県新体育館整備・運営に係る建設業務



国際大会を開催するために必要な規模・機能を有することで、国際スポーツ大会等の誘致を可能とし、かつ、大相撲名古屋場所の開催等現体育館が担ってきた伝統や歴史をさらに発展させていく愛知・名古屋のシンボルとなる施設を目指す

発注者：株式会社愛知国際アリーナ

用途	タワー住宅
構造・規模	RC造、地下1階・地上50階
延床面積	84,289㎡
工期	2022年1月～2025年8月

用途	アリーナ
構造・規模	RC造・S造、地上5階
延床面積	58,400㎡
工期	2022年7月～2025年3月

7. トピックス「多様な用途における大型工事の受注に向けた取組み」

(仮称) ESR福岡甘木 ディストリビューションセンター新築工事

NEW



九州の東西南北を結ぶ交通結節点で九州の物流の要所である「鳥栖JCT」付近に位置し、九州全域への配送を網羅。スロープで2階まで直接アクセスでき、1階は建物両面にトラックバースを配置し、2階は天候に左右されることなく入出庫が可能な中央車路式を採用。倉庫部分は、多種多様なオペレーションに対応できる汎用性の多い計画とする。また、環境負荷低減に配慮しCASBEEAランク評価基準を満たす建築計画を実施。

発注者：ESR24特定目的会社

用途	物流施設
構造・規模	S造、地上3階
延床面積	70,724㎡
工期	2021年11月～2022年12月

8. トピックス「高速道路を始めとする道路大型更新・リニューアル工事の受注に向けて」

首都圏中央連絡自動車道 阿見工事

FY21 2Q時点



現在 2 車線供用中の「首都圏中央連絡自動車道」牛久阿見IC～阿見東IC間の 4 車線化に向けた
土工事、高架橋橋梁下部工、橋台工、耐震補強工の大型複合更新工事を受注
今後増加が予測される4車線化を始めとした更新工事、リニューアル工事受注に向けた試金石となる期待の工事

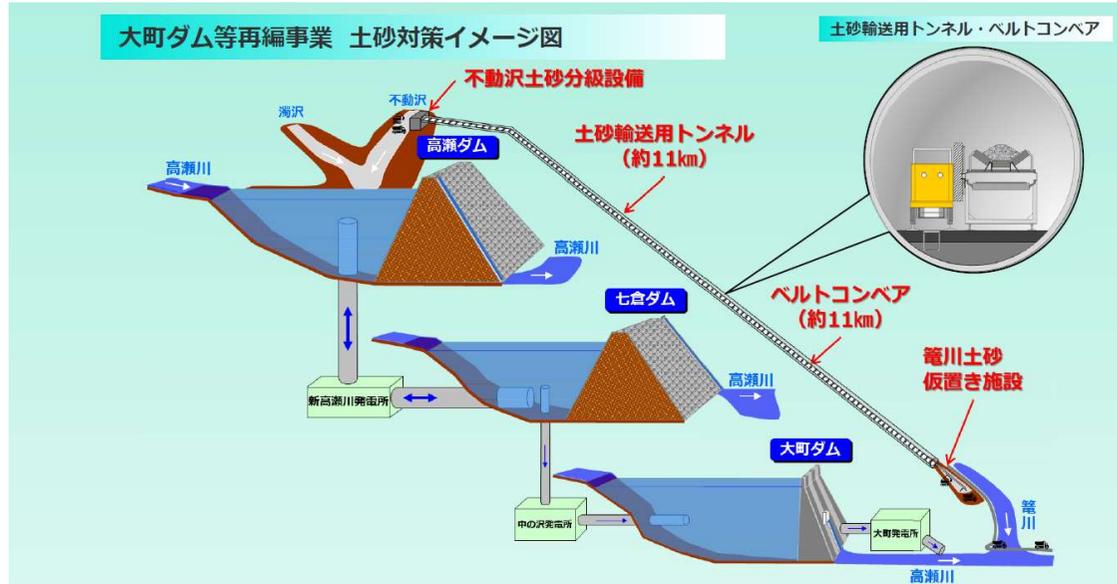
発注者：東日本高速道路(株) 関東支社

施工場所	茨城県稲敷郡阿見町
工事概要	工事延長 L=6,663m (盛土工区L=2,807.5m V=1.2万 m ³ 高架橋工区 L=2,429.4m 橋脚41基 橋台4基 他)
工期	2021年8月～2024年6月

9. トピックス「国土交通省 E C I 業務 初の受注」

大町ダム等再編土砂輸送用トンネル工事にかかる技術協力業務

NEW



大町ダム等再編事業において、大町ダム（国土交通省）高瀬ダム及び七倉ダム（東京電力リニューアブルパワー(株)）の再編による洪水調節容量確保のため、高瀬ダムの堆砂対策として整備する土砂輸送用トンネル工事にかかる技術協力業務を受注。国内でもあまり例をみないTBM工法で11kmを掘進する事業であり、施工計画が事業の成否に直結するといっても過言ではない。ダム連携による治水事業に携わる意義は大きく、当社の礎でもあるダム・トンネル工事で長年培った技術、経験を大いに貢献できる期待の事業。

発注者：国土交通省 北陸地方整備局

施工場所	長野県大町市
業務概要	トンネル（TBM工法）工事 延長 L=11km の施工計画作成、全体工事費の算出
工期	2021年12月～2022年6月

10. トピックス「運営中のインフラ運営事業」

八峰風力発電事業



メーカー GE
出力 3,200kW
ロータの直径 103m
ハブ高さ 84m

秋田県八峰町における設備容量20MWの陸上風力発電事業
(2019年2月営業運転開始)
前田建設がPJの開発、建設、運営まで一気通貫に携わるエネルギー・インフラ事業

発電規模：19,950 kW (3,200 kW×7基)

	計画	実績
発電量 (累計)	131,762MWh	134,090MWh
売電収入 (累計)	28.9億円	29.4億円
※累計期間：2019年4月から2021年9月期まで		

愛知県有料道路コンセッション



新型コロナウイルス感染拡大の影響で通行料金収入は減少するものの業績への影響は限定的
運営開始後5年を経過して、DXとR&D推進によるシステム開発を進めさらなる運営効率化を目指す

公共施設等運営権：知多4路線ほか計7路線

	今期予測	前年実績
売上高	140億	128億
営業利益	24億	31億
当期純利益	1.9億	2.8億

11. トピックス「大阪市工業用水道特定運営事業等のご紹介」

- 国内初、民間事業者が経済産業大臣に許認可を受け工業用水道事業者として事業を運営
- 国内初、管路の状態監視保全・更新工事から料金徴収までを含むオールインエ水コンセッション事業

発注者	大阪市水道局
事業会社	みおつくし工業用水コンセッション株式会社
構成企業	前田建設(71%) 日本工営(25%) NTT西日本(3%) 東芝インフラシステムズ(1%)
期間	2022年4月～2032年3月（10年間）
対象	
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> • 工業用水の供給および経営等 • 浄水場及び配水場の管理運営 • 管路の管理運営（維持管理・更新） • お客さまサービス • 災害及び事故への対応



12. トピックス「建設工事実績」

建設事業（舗装・土木）

大規模な高速道路、空港・港湾、スポーツ施設、民間駐車場等幅広く展開



東名高速道路 富士管内



大分空港



岡崎市龍北総合運動公園サッカー場

国土交通大臣から表彰を受けました

24.建設機械搭載型レーザスキャナによる土工・舗装工事のリアルタイム出来形管理の実現 国土交通省

推薦者	法政大学 今井龍一
業者名	前田道路株式会社 三菱電機エンジニアリング株式会社 法政大学 今井龍一 (デザイン工学部 教授) 中村健二 (大阪経済大学 教授) 塚田義典 (摂南大学 講師)
本社所在地	東京都品川区

【取組概要】

- ICT舗装工では表層の面管理のためのデータ計測が必須であるが、現状では計測からデータ処理、そして出来形の品質確認に時間を要するため、路床や路盤工では実施できていない。
- 本システムは、舗装工の中間工程における面管理の効率化を目的として、建設機械搭載型のレーザスキャナを開発した。
- 施工と同時に点群データを計測し、結果を解析処理しリアルタイムに確認できる。
- 発注者は計測から1時間以内に、現地に行くことなく、リモートで出来形の品質を確認できる効果を受けます。

クラウドシステム

3次元点群データ 現場写真 ヒートマップ

計測データおよび処理結果を遠隔地から迅速に確認

点群データリアルタイム取得、面管理による出来形管理を実現

建設機械搭載型レーザスキャナ

制御・処理装置 (タブレットPC)

Wi-Fiアクセスポイント

横断面形状も点群で取得 (計測幅員は4m)

自動追尾型トータルステーション

- リモートで出来形品質を確認できるため、省力化や監督員との情報共有など、施工管理の高度化や生産性向上に寄与する。また、コロナ禍でニーズが高まっている発注者の遠隔現場に活用できる先進的な技術といえる。
- 実務者の用途を満足するために開発しており、地元業者でも導入しやすい価格帯の出来形計測装置の開発を行うとともに、現場における施工事例を積み重ねており、波及性が高い。



まえだパーク・まえだTEQ



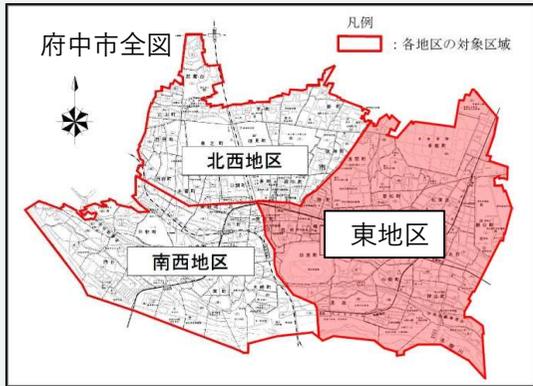
- 防災施設
- 水環境システム

地域貢献・環境貢献をコンセプトに近隣住民のための防災施設と憩いの場を提供
敷地内に降った雨水を雨水貯留槽に貯留させ自動・手動・無動力で散水等に有効利用する環境にやさしいシステム

「建設機械搭載型レーザスキャナによる出来形管理システム」は、As舗装工の前工程である路床工や路盤工の仕上り面の形状を、建設機械に搭載した装置（レーザスキャナ）で計測し、短時間でデータ処理して3次元的に出来形管理を行う革新的なICT技術

13. トピックス「包括管理実績」

東京都府中市 道路等包括管理事業(東地区)



対象区域



道路管理センター



事業の周知用広告



定例会議



路面清掃



道路補修



植栽管理

<p>‘地域’と‘人’と共に成長し続ける事業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社のノウハウを活用した、市民サービスの向上とVFM創出 ・次のステップに向けた、事業のレベルアップとデジタル化推進 	
<p>契約期間</p>	<p>2021年4月～2024年3月（3年間）</p>
<p>業務内容</p>	<p>コールセンター（市全域）、統括マネジメント、巡回、維持管理、補修・修繕（50万円未満）、事故・災害対応、要望相談対応【以上、総価契約】 補修更新（50万円以上500万円未満）、樹木剪定【以上、単価契約】</p>

14. トピックス「魅力ある製品の市場投入」

- カーボンニュートラルに対応した自社製品を世界へ向けて販売開始

バッテリー駆動 ”かにクレーン”

Zero Emissions

排出ガスゼロ

- 業界初のリチウムイオンバッテリー搭載機
- 海外市場への先行導入



MC285CB-3

バッテリー仕様クレーンのラインナップ拡充

MCシリーズ / CCシリーズ



15. 地球への配当について

2010年より前田建設が取り組んできた「**地球への配当**」制度をインフロンニアHDに引き継ぎ、単に企業として資金を拠出するだけでなく、地域やNPOと協力しながら社員や家族も積極的に関わる活動を推進する

地球への配当の対象	カテゴリー	拠出項目	
Maeda グリーンコミット 社会課題解決の取り組みや 環境活動・研究開発への寄付・支援	森林整備活動	MAEDAの森 佐久2・ふくい・たかもり 森林整備活動 MAEDAの森 新入社員 森林整備活動	
	エコシステム	生物多様性アクション大賞レガシー支援 あいち在来種保存会	
	エコスクール	経団連「生物多様性の本棚」への寄付 「MAEDA環境絵本」(5巻)	
	エコエイド	日本ユニセフ寄付金 オイスカタイ『子供の森』計画支援	
	エコエンジェル		グリーン電力証書の購入 ガラパゴスの歴史保存のための視聴覚資料デジタル化の支援 NPO・NGO法人への環境活動支援・調査に対する寄付 経団連自然保護協議会への寄付
			WASEDAサポーターズ倶楽部寄付金 障がい者の自立支援活動に対する寄付 発展途上国の子供たちの支援活動に対する寄付 先進医療、心と体の健康への貢献に対する寄付金 防災・減災・安全に関する研究や活動に関する寄付金
			福井県企業版 ふるさと納税
		グリーンR&D	地球環境・社会的課題解決のための技術開発支援
		エコポイント制度	社員と家族、個人の全生活領域で、環境活動を推進するためのエコポイント制度
		MAEDA SII (Social Impact Investment)	地球環境・社会的課題解決事業に取り組むベンチャー企業への出資・支援

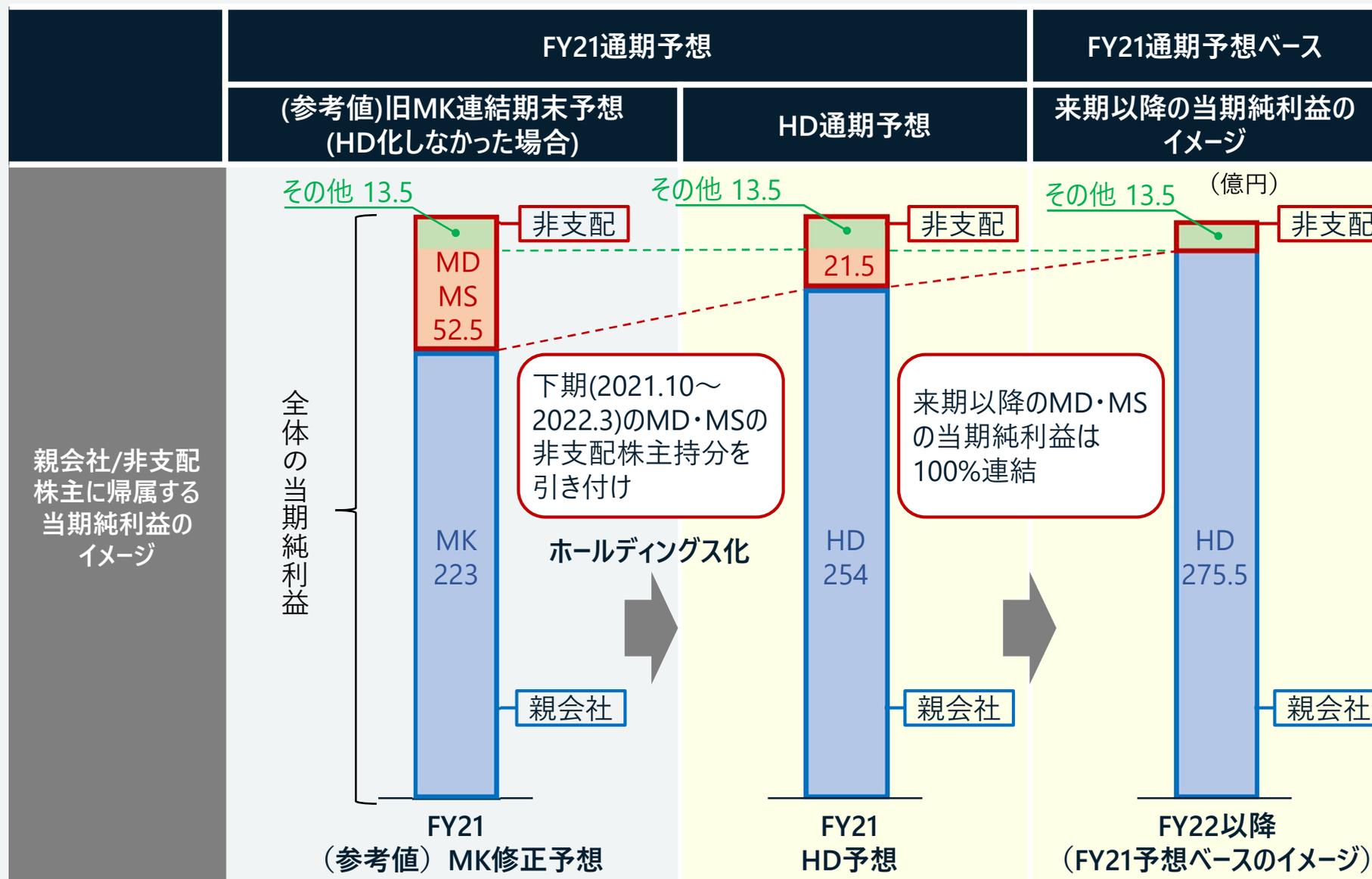
16. セグメント分けの変更

- ホールディングス化に伴い、セグメント分けを変更
- セグメント変更に伴う業績数値の大きな変化はない

インフロニア・ホールディングスのセグメント		これまでの前田建設連結のセグメント	
建築事業	前田建設工業(株)建築事業 前田建設工業(株)不動産事業（建築）	建築事業	前田建設工業(株)建築事業 (株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス 建築事業
土木事業	前田建設工業(株)土木事業 前田建設工業(株)不動産事業（土木）	土木事業	前田建設工業(株)土木事業 (株)エフビーエス 土木事業
舗装事業	前田道路(株)（連結）	舗装事業	前田道路(株)（連結）
機械事業	(株)前田製作所（連結）	製造事業	(株)前田製作所（個別） フジミ工研(株)
インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発	インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 匿名組合五葉山太陽光発電 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション 匿名組合美祢太陽光発電 匿名組合八峰風力開発
その他	(株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス フジミ工研(株)	その他	前田建設工業(株)不動産事業 （建築・土木）

17. ホールディングス化に伴う連結決算の変化

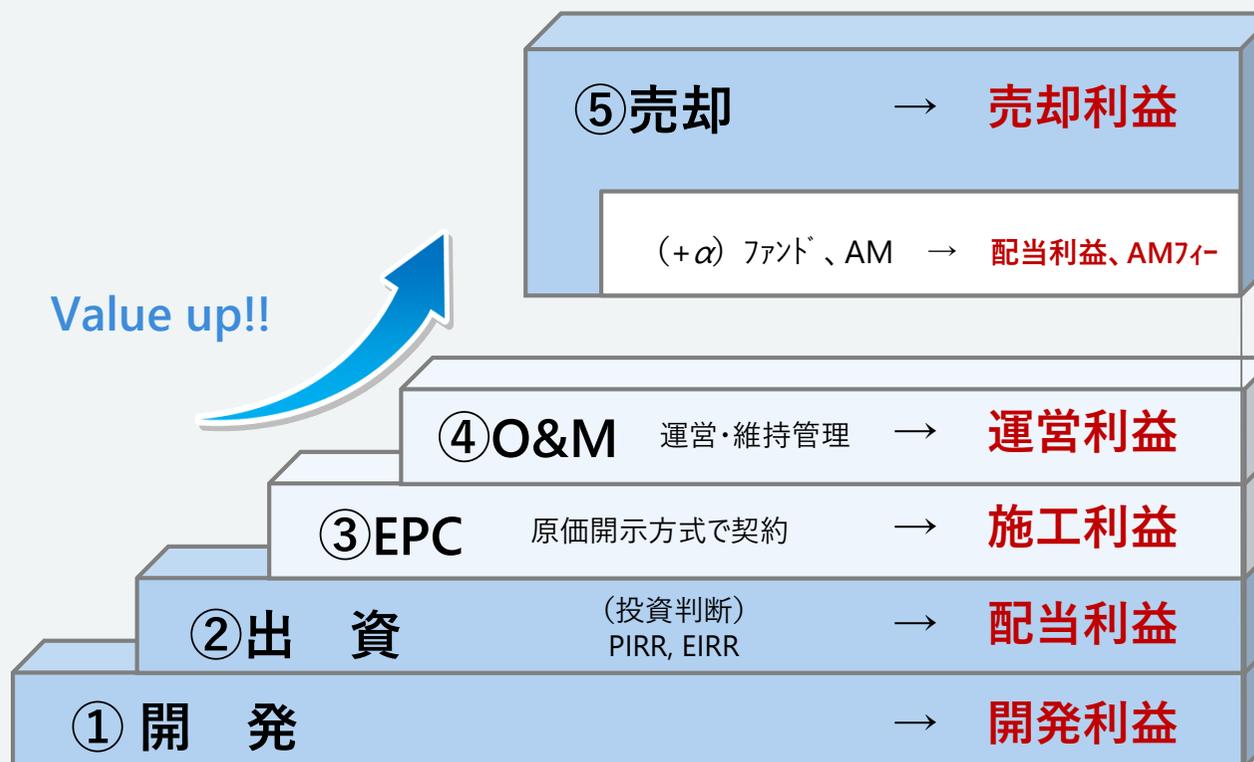
- 21年10月のホールディングス化により、非支配株主に帰属する当期純利益が変化
- FY21下期のMD、MSの当期純利益は、HDの親会社株主に帰属する当期純利益となる（来期以降100%連結）



HD：インフロニア・ホールディングス MK：前田建設 MD：前田道路 MS：前田製作所

18. インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



- 事業から5段階 + αで収益を獲得
- 施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）

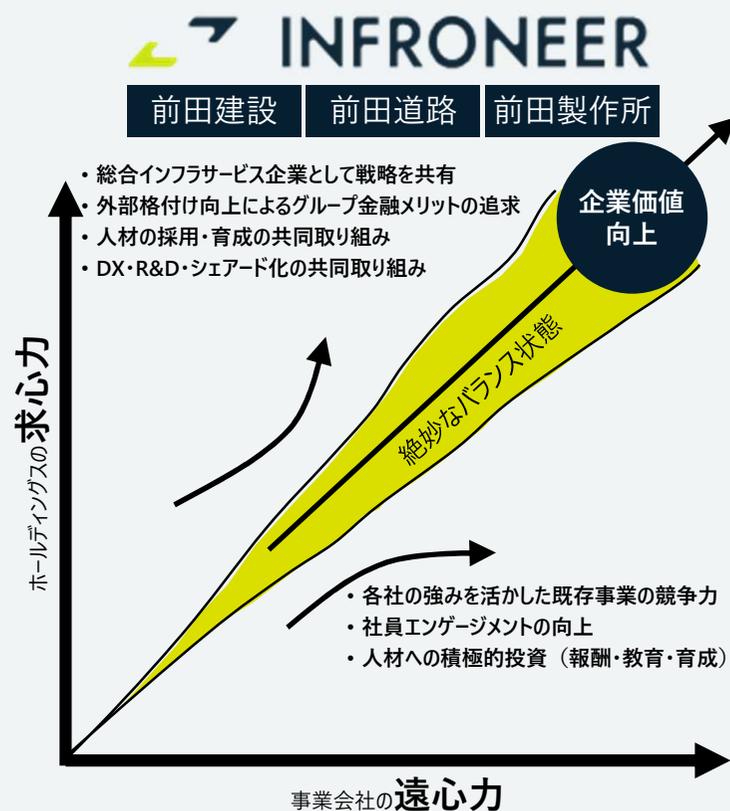
19. インフロニア・ホールディングスの戦略のポイント

① インフロニア・ホールディングスの経営コンセプト

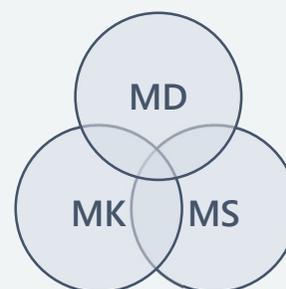
- ・ホールディングスの求心力と事業会社の遠心力の絶妙なバランスを保ち、爆発的な企業価値向上を目指す

② インフロニア・ホールディングスが目指す姿

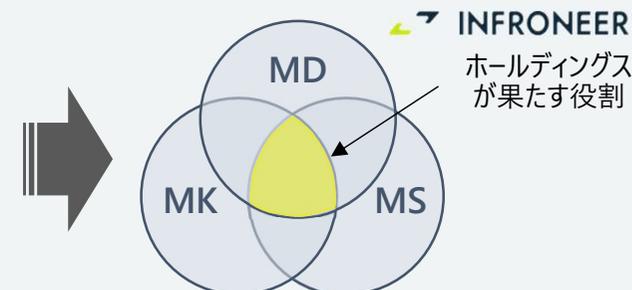
- ・「総合インフラサービス企業」をグループ全体戦略として共有し、外的要因に左右されない「高収益かつ安定的な新たな収益基盤」を確立
- ・グループ全体で戦略を共有し、シナジーの最大化によって、持続的な成長を実現
- ・あらゆるステークホルダーから信頼される企業を目指す



これまでの3社の関係

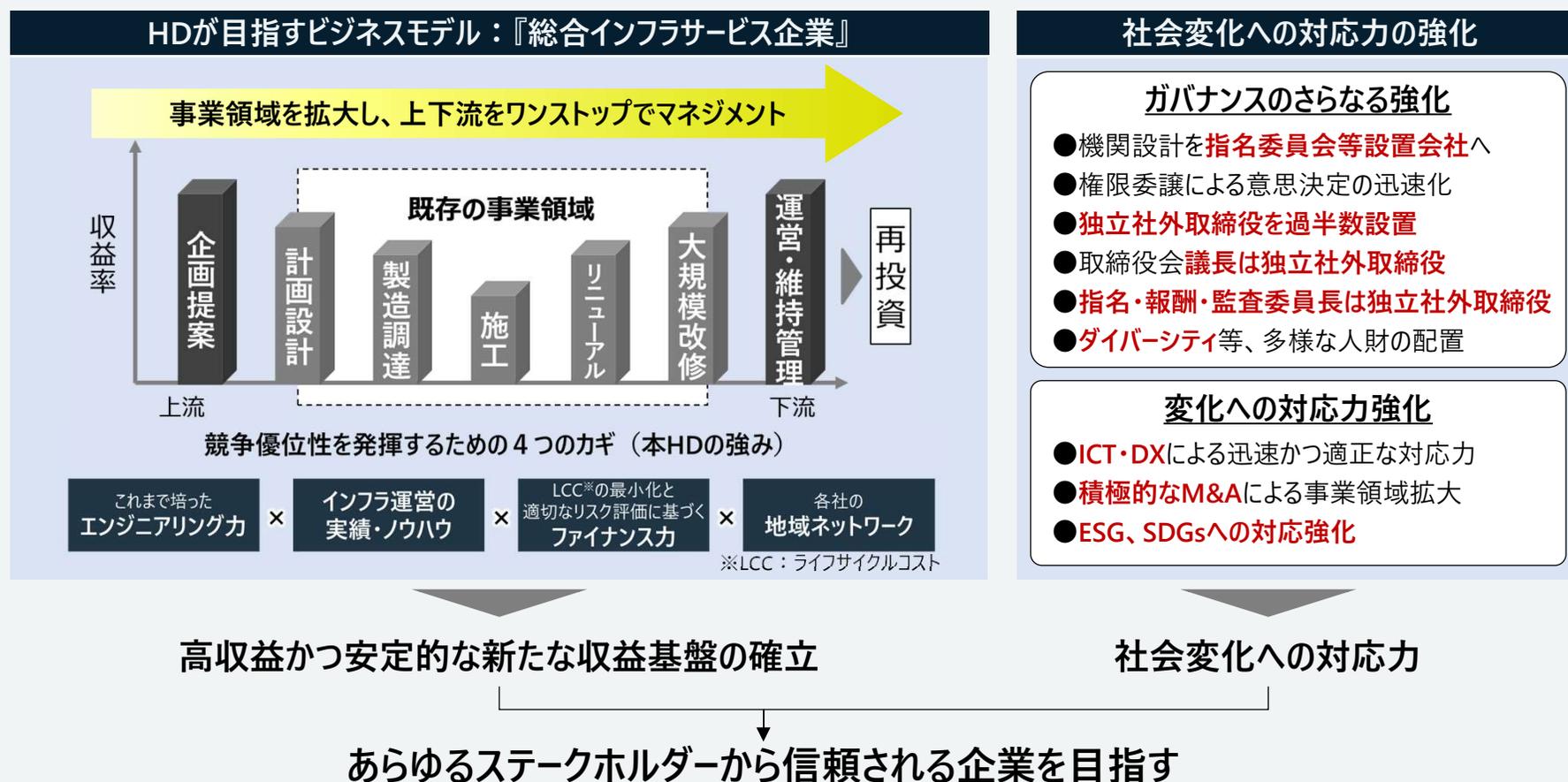


グループが目指す関係



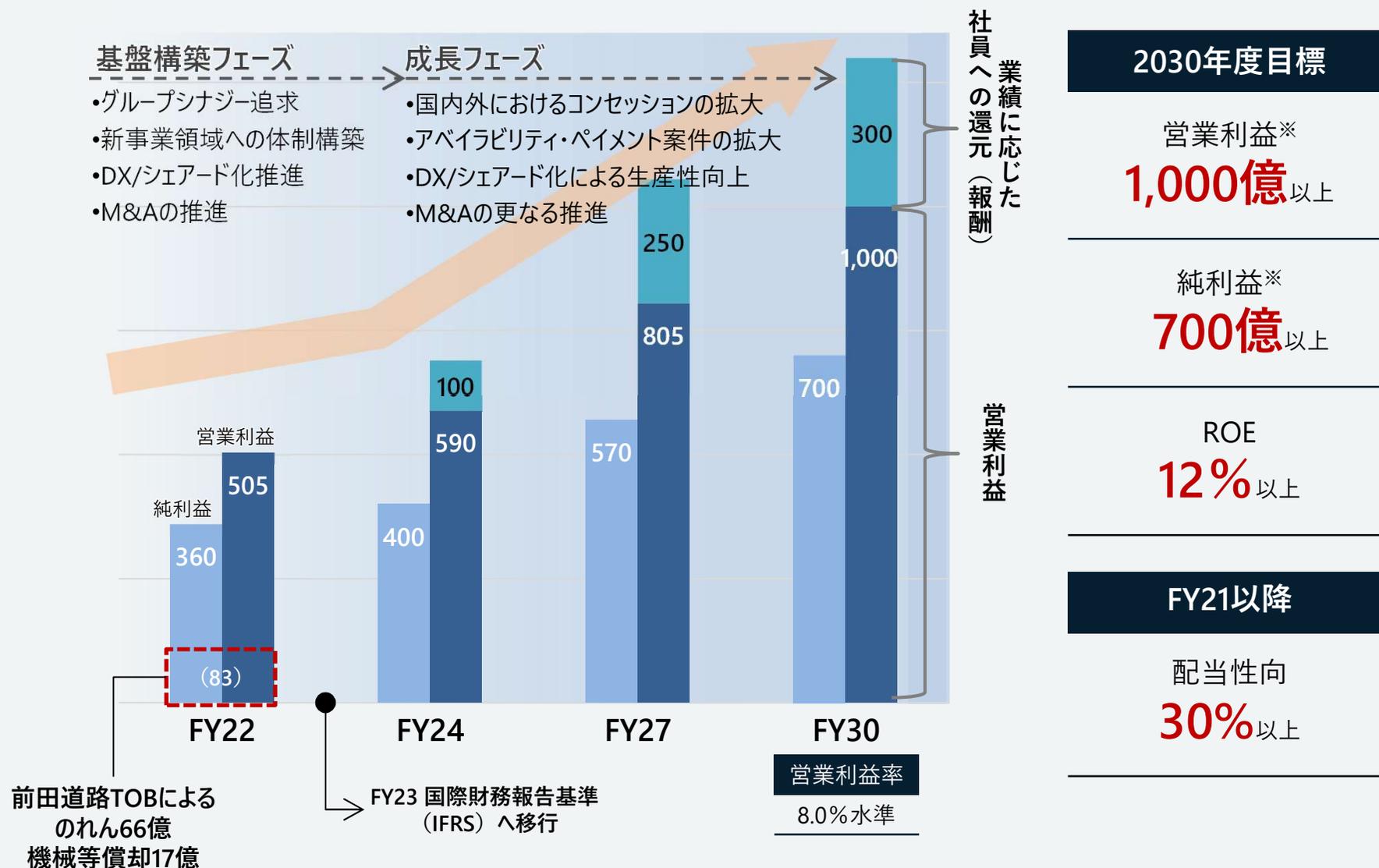
20. インフロンニア・ホールディングスが目指す姿

- 外的要因に左右されずに持続的成長を実現するビジネスモデルの確立を目指し、インフラ運営の上流から下流までをワンストップでマネジメントする「**総合インフラサービス企業**」をグループ全体戦略として強力に推進する
- グループ各社のエンジニアリング力の結集と、積極的なM&Aによる事業領域の拡大により、競争力を早期に最大化し、外的要因に左右されない「**高収益かつ安定的な新たな収益基盤**」を確立する
- さらに、実効性のあるガバナンス体制の構築やDXの推進等により、迅速かつ適正な経営を実現し、「**社会変化への対応力**」を強化することで、「**あらゆるステークホルダーから信頼される企業**」を目指す



21. 経営目標数値

- 30年度に売上高1.2兆超、営業利益1,000億以上（営業利益率8%水準）、純利益700億以上、ROE12%以上を目指す



※利益はIFRSを前提とした数値（のれんの償却は計上せず 売却益・持分法適用利益・M&A含む）

【注意事項】

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。
また、業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む
Challenge the status quo

 **INFRAFRONTIER Holdings Inc**